

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について(送付)

このことについて、病虫害発生予報第12号を発表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予報第12号  
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
冬春トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 多い	並 並 多い
冬春ナス	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病 アブラムシ類	並 並 並 並	並 並 並 並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病	並 並 並	並 並 並
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少ない 並 並 並	やや少ない 並 並 並
野菜共通	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	やや少ない 並	やや少ない 並

【野菜】

1 トマトの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

ア 2月5半旬調査の結果、発病果率は平均0.2% (平年:0.1%、前年:0.3%)であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 比較的低温で多湿の場合に発病が多いので、ハウスの換気を図り、加湿機や除湿機を運転することで湿度を下げる。

イ 茎葉が重なり合わないよう誘引・摘葉などの管理作業を適切に行うことで通気性をよくする。

ウ 発病後に菌密度が高くなると防除が難しくなるので、発病初期のうちに防除を徹底する。

エ 被害果・被害茎葉や不用な花卉は早めに取り除き、ほ場の外へ持ち出して処分する。

オ ベンズイミダゾール系剤(トップジンM、ベンレート)、ジカルボキシイミド系剤(ロブラール、スミレックス)あるいはジエトフェンカルブを含有する薬剤(スミブレンド、ゲッター)は、いずれも連続して使用すると薬剤耐性菌を生じやすいので、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

カ 薬剤防除については県野菜病害虫防除基準を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める(以下の病害虫についても同様)。

2 トマトの葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は平均8.0%(平年:1.7%、前年:3.3%)であり、一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿を避ける。

イ 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

ウ かん水過多にならないよう注意する。

エ 病勢が進展してからでは防除が困難であるので、発病前または発病初期のうちに防除を徹底する。

オ 発病葉は早めに除去し、ハウス外で処分する。

3 ナスのすすかび病(平成14年11月29日発表の速報第9号参照)

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は平均22.0%(平年:23.8%、前年:30.5%)であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 薬剤防除だけで病勢の進展を抑えるのは困難なので、換気を行うことで多湿状態にならないよう管理する。ただし、温度・湿度は急激に変化させないように注意する。

ウ 草勢の低下で発病が助長されるので、着果量の調節や適切な肥培管理

を行う。

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場の外へ持ち出して処分する。

オ 本病原菌の分生胞子は曇天・雨天時に形成され晴天時に飛散するので、曇天・雨天直後の晴天日に薬剤散布すると防除効果が高い。

カ 各種薬剤に対する病原菌の感受性を低下させないために、同一系統の薬剤は連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

#### 4 キュウリのべと病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや多い

##### (2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病葉率は平均15.0%（平年：13.7%、前年：7.7%）であり、一部のほ場で多発している。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

イ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 各種薬剤に対する病原菌の感受性を低下させないために、同一系統の薬剤は連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

#### 5 キュウリの灰色かび病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病果率は平均1.3%（平年：1.7%、前年：2.8%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないように管理する。

イ 被害果は早めに除去する。

ウ 各種薬剤に対する病原菌の感受性を低下させないために、同一系統の薬剤は連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

#### 6 イチゴのうどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、発病株率は平均0.1%（平年：1.1%、前年：0.6%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本病は上位葉の裏面から初発生するので、そこを随時観察し早期発見に努める。

イ できるだけ不要な葉をかぐことで、葉の裏にも薬剤がかかりやすいよ

うにする。

ウ 各種薬剤に対する病原菌の感受性を低下させないために、同一系統の薬剤は連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

## 7 イチゴのハダニ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、寄生株率は平均3.8%（平年：3.6%、前年：2.4%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難になるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ハダニは摘葉するとその葉から急速に移動するので、ほ場内に葉を放置せず、ビニル袋等に入れ密閉して処分する。

ウ 各種薬剤に対する本害虫の感受性を低下させないために、同一系統の薬剤は連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

## 8 野菜共通のミナミキイロアザミウマ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 2月5半旬調査の結果、冬春ナスでの寄生葉率は平均0.5%（平年：5.7%、前年：0%）で、被害果率は平均0.4%（平年：0.2%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるため、発生初期に防除を徹底する。

イ 各種薬剤に対する本虫の感受性を低下させないために、同一系統の薬剤は連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

## 【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ	少ない	やや少ない

## 【茶】

### 1 カンザワハダニ

#### (1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

- イ 発生量 : 平年よりやや少なく、前年並
- ( 2 ) 予報の根拠
  - ア 2月5半旬調査の結果、茶樹表層における寄生葉率は0.7% ( 平年 : 3.1%、前年 : 0% ) で、50葉当たり寄生虫数は平均0.4頭 ( 平年 : 4.5頭、前年 : 0頭 ) であった。
  - イ 2月5半旬調査の結果では、茶樹表層及び裾葉のいずれでも越冬ダニの産卵は認められなかった。
  - ウ 気象予報では、3月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。
- ( 3 ) 防除上注意すべき事項
  - ア 現在のところほ場での産卵は認められないが、雌成虫の産卵数が増加する前 ( 平坦地域では3月5 ~ 15日頃、山間地域では3月15 ~ 25日頃 ) に防除を徹底する。
  - イ 防除薬剤は「平成15年度茶・いぐさ病害虫防除基準」を参照し、使用基準を守り、危被害防止に努める。

### 3月の気象予報（1か月）

（予報期間 2月22日～3月21日）

2003年2月28日  
福岡管区气象台発表

#### 【概要】

向こう1か月の平均気温は高いか平年並、降水量・日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では天気は周期的に変化し、月前半は寒気の影響を受けて気温の低い時期があるでしょう。

#### 【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	40	40
降水量	20	50	30
日照時間	30	50	20

- < 1週目の予報 > 3月1日～3月7日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 3月8日～3月14日  
この期間の平均気温は、低い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 3月14日～3月28日  
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

#### 参考資料

福岡における平年値：向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
9.7	98.2	136.5	8.3	9.3	10.6

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。なお、テレホンサービスの提供は業務の見直しにより平成14年度（平成15年3月31日）限りで廃止となります。長い間のご利用ありがとうございました。

ホームページアドレス                   www.jppn.ne.jp/fukuoka.  
電子メールアドレス                   kfok0301@sp.jppn.ne.jp  
テレホンサービス                   092-928-6401（普通作・イグサ）  
  092-928-6402（果樹）  
  092-928-6403（野菜・茶）